

台風26号対策について (10月中旬～下旬)

平成25年10月15日

営農支援課

I ハウス等施設全般の対策

施設については別添の「ハウス等施設の台風対策」を参照。

II 作物別の対策

1 普通作物

【普通期水稻（登熟期～収穫期）】

(1) 事前対策

- ① 深水管理にして倒伏被害の軽減を図る。
※但し、棚田等で畦畔崩壊のおそれのあるところでは控える。
- ② 浸冠水しやすい水田では溝切りや排水溝の整備を行う。

(2) 事後対策

- ① 浸冠水した水田では、通常の湛水状態に速やかに排水する。
- ② 晩性種の「まいひかり」など登熟途中にある稲では、台風通過後も乾燥風等により生育障害が発生する場合があるので、急な落水は避けて風が止むまでは十分な湛水を保つ。
- ③ 倒伏し穂先が地面につくと穂発芽しやすくなるので、穂先を上げるなどする。
なお、登熟中の稲で挫折倒伏（折れた状態）の場合には、無理に株を動かすと損傷を大きくする場合があるので注意する。
- ④ 成熟期に達している稲は早めに収穫できるよう直ちに排水する。
- ⑤ ほ場内にゴミが飛散した場合は、収穫機械等に支障が生じないように、早めに除去する。
- ⑥ 倒伏したところは穂発芽や粃の腐敗などで玄米品質が低下している場合があるので刈分けする。

【大豆（莢肥大期）】

(1) 事前対策

- ① 浸冠水に備え溝切りや排水溝の整備を行う。
- ② 株の折損や倒伏被害の軽減を図るため、土寄せを行う。

(2) 事後対策

- ① 浸冠水したところでは速やかに排水する。
- ② 倒伏した株はできるだけ引き起こす。

【そば（開花期）】

（１）事前対策

- ① 浸冠水に備え溝切りや排水溝の整備を行う。

（２）事後対策

- ① 浸冠水したところでは速やかに排水する。

=====

★農作業安全

例年、水田管理等で増水した河川や水路に近づき、転落等の重大な事故が発生しているため、水位が下がるなど安全な状態になるまで近づかない。

機械操作等の際は、雨で地盤が軟弱になっている場合があるのでよく確認して作業する。

=====

2 施設野菜

【栽培中のハウス（雨よけ栽培、育苗ハウスも含む）】

（１）事前対策

- ① ハウスバンドを点検し、ゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ② ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定して強度を高める。
- ③ ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ④ 台風の進路に注意し、ハウス倒壊の危険がある場合（25m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑤ ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑥ 防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ⑦ ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。
- ⑧ 土壌消毒中でハウス内にマルチが被覆してある場合は、風ではがれないようにするために、土を詰めた肥料袋等で重しをする。
- ⑨ 育苗の終わった育苗ハウスでは、ハウス倒壊回避のためビニルを除去する。

（２）事後対策

- ① 防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くする。
- ② 湛水した場合速やかに排水を行う。
- ③ 傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④ 速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。
- ⑤ 草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

3 露地野菜

【露地野菜共通事項】

(1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、雨水の流入を防ぎ排水に努める。

(2) 事後対策

- ①冠水したほ場では速かに排水を行う(品目毎に事後対策を参照)。

【果菜類】

(1) 事前対策

- ①ほ場の周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ②栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。

(2) 事後対策

- ①湛水した場合速やかに排水を行う。浸蝕された畦は早めに土寄せ等を行う。
- ②果実の損傷の激しいものは除去し、傷害果や幼果は早めに摘果、倒れた枝は引き起こして誘因し、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③速効性窒素肥料を成分で10a当り2~3kg施す。
- ④茎葉の損傷部分や草勢の低下により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

【さといも】

事後対策

- ①株元まで冠水した場合や根が露出している場合は排水を行い、収穫適期に達している場合は早めに収穫を開始する。

【かんしょ】

事後対策

- ①冠水するといもが変質(脱色等)するので、冠水後は早急に排水を行う。
- ②根が露出している場合は培土をおこなうか、早めに収穫する。

【ほうれんそう】

事後対策

- ①播種直後は大雨により種子の流亡が起こりやすいので、発芽状況を確認して欠株が多いときは播種し直す。また、肥料の流亡が考えられる場合は施肥もやり直す。

【にんじん、だいこん】

事後対策

- ①薬剤散布を行い、少量の窒素肥料を葉面散布して草勢回復を図る。

【きゃべつ、はくさい】

事後対策

- ①薬剤散布を行い、少量の窒素肥料を葉面散布して草勢回復を図る。

4 果樹

収穫期である温州みかん、なし、かきの被害を最小限にとどめるように尽力する。被覆前の施設きんかんや施設日向夏などについては、かんきつ類全般に準じた管理を行う。

【果樹共通】

(1) 事前対策

- ①ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。
- ②防風ネットの点検を行う。
- ③枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。
- ④倒伏の予想される苗木等は三脚支柱を組む。

(2) 事後対策

- ①結束した枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。
- ②幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
- ③枝折れ、枝裂けしたところは切り取り、大きな傷口には塗布剤を塗る。
- ④落葉のひどいものには、日焼けを防止するために、石灰乳を塗布する。
- ⑤カメムシの飛来が見られた場合は、速やかに防除を実施する。薬剤の選択にあたっては、収穫前日数に留意する。

【かんきつ類全般】

(1) 事前対策

- ①風傷による葉や果実へのかいよう病の発生が懸念されるので、襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ②温州みかんなどのマルチ栽培では、被覆資材が風であおられないように土のう等で固定する。

(2) 事後対策

- ①かいよう病の発生を防止するため、事前の薬剤散布を実施していないところでは、銅水和剤の散布を行う。
- ②塩害が懸念される場合は、6時間以内に2～3トン／10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。
- ③温州みかんなど、褐色腐敗病の発生が懸念される品種では、防除を実施する。薬剤の選択にあたっては、収穫前日数に留意する。

【マンゴー ビニル除去園】

(1) 事前対策

- ①新葉のかいよう病の発生が懸念されるので、襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ②防風対策として、ネットや寒冷紗等の展張を行う。

(2) 事後対策

- ① 台風通過後は、枝葉の充実促進のために十分な日射量確保が必要なため、ネットや寒冷紗等を速やかに除去する。

【完熟きんかん】

事前対策

- ① 強風により果実に傷が発生するため、防風ネットを設置し風を弱めるようにする。
- ② 秋季加温を計画しているハウスでは、サイドビニルを設置して巻き上げ固定しておく等、被覆の準備を進め、通過直後にすぐに被覆、加温開始ができるようにしておく。

【なし、ぶどう等】

事前対策

- ① 棚や防風ネットの補修を早めに行うとともに、棚の揺れの激しいところは支柱を立てて結束するなど補強を行う。
- ② 側枝等の棚への誘引を見回り、ゆるんでいる場合は締め直す。

【落葉果樹】

事後対策

- ① 病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。収穫が近い場合は、収穫前日数に注意する。
- ② 主枝・亜主枝等の太枝が裂けたものでも、穂果・果実の成熟まで枯死しないと見込める枝は、傷口にゆ合剤を塗布してひもなどで固定し、収穫後切り離す。主幹部が折れたものは、萌芽した中の2～3本を育成する。台木から萌芽した場合は春の切接ぎの準備を行う。

5 花き

【露地花き全般】

(1) 事前対策

- ① 滞水しないように排水溝を整備する。
- ② マルチは土寄せをおこなうか、市販止め具等によりしっかりとおさえ、風による剥がれを防ぐ。
- ③ 生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ ほ場周辺の片づけを行い、飛来物による作物の被害を防ぐ。

(2) 事後対策

- ① 冠水・浸水があった場合は、速やかに排水作業を行う。
- ② 必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

【シキミ】

(1) 事前対策

- ① 幼木は倒れる可能性があるなので、支柱で固定する。

(2) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- ② 倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する場合があるので、段階的に起こして、正常な状態に戻す。
- ③ ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する場合があるので速やかに株の周りの土砂を取り除く。

【キク・露地電照】

(1) 事前対策

- ① 切り前が近く、収穫が可能なものはできるだけ収穫をして十分に水揚げをする。

(2) 事後対策

- ① 倒伏したものは曲がり防止のためできるだけ早めに引き起こし、薬剤散布を行う。

【施設・雨よけ花き全般】

(1) 事前対策

- ① 排水溝の整備、防風ネットの設置を行う。
- ② 草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ③ ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー・ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

(2) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ② 台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗等で被覆を行う。
- ③ 茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ④ 電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

【スイートピー】

(1) 事前対策

- ① 誘引直後でハウスの被覆を剥ぐ場合は、茎をネットから外して地際に這わせ、防風ネットで被覆し、風雨による損傷を最小限に抑える。

(2) 事後対策

- ① 降雨等により畦の表面が硬く締まった場合は、浅く中耕し、通気性・透水性を良くする。
- ② 欠株が多い場合は、わき芽を利用し複数本に仕立てるか、補植を行う。

【コショウラン他、冷房ハウス、冷蔵庫、電照等】

(1) 事前対策

- ①長期停電に備え、自家発電等を用意する。
- ②外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。
- ③電照施設は電球の点灯を確認し、タイマーを設定を行う。

(2) 事後対策

- ①落蕾等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
- ②夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷庫から外に出す。その他は施設花き全般に準ずる。

6 特用作物

【茶】

(1) 事前対策

- ①1～2年生の茶園では、防風ネットを設置する。また、株元やマルチ資材への土寄せにより、株の揺れやマルチのばたつきを防止するとともに、排水対策を実施する。
- ②2～3年生の茶園では、徒長枝の整剪枝を実施する。
- ③茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を実施する。

(2) 事後対策

- ①風雨による倒伏や地際部に損傷を受けた幼木園では、株元やマルチ資材への土寄せ、補修を実施する。
- ②降雨が少なく、海からの風で塩分が付着したとみられる茶園では、塩分付着8時間以内にスプリンクラー等で散水（5 mm以上）し、塩分を除去する。
- ③強風により葉の損傷を受けた茶園では殺菌剤を散布する。
- ④滞水・浸食部分の速やかな排水処理と改修を実施する。

7 畜産

【畜産全般】

(1) 事前対策

- ①畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。
- ②特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。
- ③停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を事前に行う。
- ④断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
- ⑤家畜ふん尿等が、流出しないよう、必要な対策を行う。

(2) 事後対策

- ① 浸水した畜舎は、台風通過後に速やかに消毒する。
- ② 敷料が濡れた場合は、速やかに乾いたものと交換する。

【養豚・養鶏】

(1) 事前対策

- ① 鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。

(2) 事後対策

- ① 台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

- ① 発芽間もない飼料作物は、長期間の冠水で湿害が予想されるので、ほ場周辺に排水溝を設置し水が貯まりにくいようにする。冠水した場合は速やかに排水する。
- ② 折損が考えられる場合、トウモロコシやソルゴーは早めに刈り取るようにする。

別添 「ハウス等施設の台風対策」

営農支援課

【事前対策】

① 防風ネットの設置
防風ネットはあらゆる強風対策の基本であり、必ず設置する。

② 被覆資材の補強
被覆資材がはがれる被害は、屋根の両端の破れが引き金となる。
図1の■部分をネットで保護する。

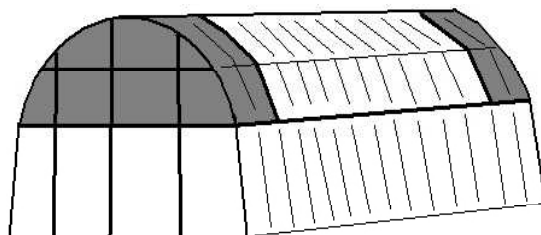


図1 被覆資材の補強

③ ハウス本体の補強
ハウスビニル等にシワ・タルミがあると、耐風性は大幅に低下する。必ず確認を行なう。
サイドビニルの出入り口はしっかりと閉じて固定する。ハウスのバンドの本数を増やすとともに、締め直し補強する。ハウスバンドを止める側のヨリ鋼線や支柱を支えるラセン杭も補強する。硬質ハウスでは天窓の補強も重要となる。ロープ等でしっかりと固定する。

④ 排水対策の徹底
ハウス内に雨水が流入しないように、周囲の排水溝の整備を徹底する。また、ハウスが連棟の場合、谷水を「とい」などで排水路まで導き、ハウス内に入らないようにする。

⑤ 自動開閉装置対策
ハウスを締め切ったあと、温度センサーによって換気部が動き出さないようにする。

⑥ 燃料タンク対策
台風により、広範囲が冠水しているときに、燃料タンクが倒れたり、配管の破損等により燃料油が流出すると、農作物だけでなく施設周辺にも被害を及ぼすので、タンクの固定ボルトの増し締め、配管付近の片付けを行う。

⑦ 換気扇の利用
換気扇がある場合には、換気扇によってハウス内を低圧状態に保つことで、ハウスビニルの揺れを防止する。また、停電に備え非常用電源を準備する。

⑧ 倒壊の恐れがある場合
ハウス倒壊の危険がある場合には、押さえバンドを切ってビニールを除去し、ハウスの倒壊を防ぐ。
また、雨中の作業では、飛来物に注意し、転落事故にも気を付ける。

【事後対策】

通過後一気に晴れてしまうことが多いので、換気対策を優先し、換気部の補強を解き、自動開閉装置の設定を元に戻す。
ビニルが破損した場合には、速やかに補修する。
滞水した場合には、すみやかに排水を行なう。